

(様式 2)

女性の就農環境改善計画

実施主体名	メルきゅん女子
取組	(2) 地域の女性農業者グループの活動支援
構成員数	6 人 (全員 女性)

1 事業実施方針

長年続いていた農産物直売所が閉店し、女性農業者が気軽に参加し販売できる機会が減った。これからは地域で一番大きな道の駅農産物直売所への期待がかかる。現在その直売所には地域らしさが少ない。このままではお客さんも生産者の想いも離れてしまうと危惧している。そこで地域女性農業者が中心となり勉強会等を通して地元らしさを追求した魅力ある直売所を目指す。地域の農業女性はなかなか前に出ることが少なく、悩みを打ち明けたり相談したりできる気軽な場所もない。今回、地域女性農業者たちが中心に活動することをきっかけに、仲間づくりが広がり、日々の情報交換ができるような場づくりもできればと考える。計画終了後に、新たに農業を通し地域活性化できる動きにつながるよう活動していきたい。地域の農業全体が発展することも目的とする。

(注) 具体的に記載してください。

2 女性就農環境改善に向けた実施体制

●実施体制
女性グループ「メルきゅん女子」が中心となり、外部講師を招いて勉強会を重ね、地域らしさが感じられる魅力ある道の駅農産物直売所を目指す。生産者の会、売場スタッフ、管理者が協力し活動。現状を知り、将来への方向性を見出し、アクションプラン作成まで考える。その後の活動計画にもつなげる。
直売所が女性農業者の情報交換や地域農業発展の拠点となっていくことも期待する。地産地消推進、消費拡大にもつなげたい。勉強会を重ねる中で女性農業者たちの交流が深まること、活動を発信することで新しい仲間が増えることを目指す。女性の観点からの農業情報に関するはもちろん、教育や福祉に関すること、観光発展に向けて等、地域全体を活性化していく仲間作りを目指す。

●連携状況
直売所生産者の会、小矢部市女性農業士会等、地域の農業を支えている女性農業者との連携が期待できる。道の駅管理者とも協力。農業に特化した小矢部園芸高校学校や小矢部市商工会の女性部との連携も期待できる。

●「メルきゅん女子」メンバー (6名)
地元が魅力ある場所であるために、地域の農産物を通し女子力ある行動と発想で、ワクワクやドキドキを自ら楽しみ、地域に広め貢献することを目的として活動するグループ。今回の活動が地域の女性たちにトキメキを波及できるよう取り組む。
勉強会の企画・運営、事前準備などを行う。活動を SNS にて発信。

①加工食品製造販売農家 (農業委員、前農業特産物推進協議会会長)

②有機農業の農家	(女性農業士会会長)
③加工食品製造販売者	(商工会女性部部长)
④養蜂家	(特産物推進協議会会員)
⑤地域食堂経営者	(母子家庭等へ食の支援活動)
⑥園芸農家	(特産物推進協議会会員)

(注) 応募団体での受入体制や関係機関との連携状況等を具体的に記載してください。

第4の(1)の事業の応募者については、協議会等に属する構成員について5名以上の農業者(女性1名以上を含む)の氏名を記載してください。

3 女性就農環境改善のため実施している取組及び今後の取組

(1) 女性の就農希望者、新規就農者の呼び込みに向けた取組

内容	成果/目標	備考
(実施中の取組)		
1) メンバーが研修体験の受け入れ ・新規就農者の研修受け入れ ・支援学級の就労体験受け入れ ・14歳の挑戦 受け入れ ・就農の相談	1) ・2012年 男性1名 ・2018年 男子1名 ・2018~2019年女子4名 ・2021年 女性2名	
2) メンバーが講演会等で情報発信 ・農業共済新聞コラム掲載 ・「農業女子フォーラム」にて講演 ・「農業女子」刊行時の執筆	2) ・2019年(年間5回) ・2016年2月 ・2015年	
3) SNSなどで情報を発信 ・ブログ、Facebook、Instagram ・Facebook、Instagram	3) ・ブログ ほぼ毎日 FB フォロワー1060人 インスタ フォロワー662人 ・週に約2回 インスタ フォロワー324人	
4) 移住促進体験ツアー受け入れ ・移住者起業農家として ・郷土食作り 伝統料理講師として	4) ・2019年2月 ・2019年2月	
5) グループでの活動に新聞取材、ラジオ出演依頼 ・北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞 ・ニッポン放送ラジオ番組「週刊なるほどニッポン」出演	5) ・2020年11月 3社 ・2020年12月	
(今後の取組)		
1) 新規就農者の受け入れ	1) 2022年 男性1名	
2) SNSでの発信 ・各個人で ・グループで(FacebookやInstagramで)	2) ・変わらず継続 ・2022年4月~月2回(目標)	
3) 小矢部園芸高等学校の専攻科(社会人枠)	3)	

生徒(60代中心)の新規就農につながるような仕組みを考えていきたい	2022年5月～ 農家体験5名(目標)	
-----------------------------------	------------------------	--

(注)「内容」欄には具体的な取組内容等を記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

(2) 女性の新規就農者の農業や地域への定着に向けた取組

内容	成果/目標	備考
(実施中の取組) 1) 定例会 日々の情報交換、打合せ等 2) 地元イルミネーションイベントのイメージに合わせた限定パフェ等メニュー3品を開発。 3) イベントに出店し限定メニューを販売 (地域食材をPRグループの活動を紹介、来店者と交流)	1) 2020年～ 毎月 (女性メンバー6名) 2) 2019年9月～11月 (女性メンバー6名) 3) 2020年11月～12月5回 (女性メンバー6名) 来店者約150人	
(今後の取組) 1) 定例会 継続 2) 事業実施の取組み ・直売所改善に向けた勉強会 ・バスにて視察研修会 3) 新しく女性農業者が集まる居場所作り	1) 毎月(目標) 2) 2022年5月～11月 ・男女15名(メンバー6名含) 5回 ・男女20名(メンバー6名含) 1回 3) 2022年10月(目標)	

(注)「内容」欄には具体的な取組内容等を記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

(3) 女性就農環境改善に向けた取組

内容	成果/目標	備考
(実施中の取組) 1) 地域の農産物を用いたメニューの開発 2) 地元イルミネーションイベント開催期間 出店し限定パフェなどを販売 3) グループ内メンバーはいろいろな役職、立場にいる。それぞれが持つ知識や情報、技術を合わせて、農業を通じた地域活性化の将来を考え活動している。 4) 市の食育推進会議に参加 意見提出	1) 2020年9～11月 2) 2020年11月～12月 3) ・定例会 月1回 ・SNSで日々情報交換 4) 2022年2月	
(今後の取組) 1) 定例会 継続 2) 事業実施の取組み ・直売所改善に向けた勉強会	1) 毎月(目標) 2) 2022年7月～ 2023年1月	

<ul style="list-style-type: none"> ・商品開発 ・イベント開催 ・バスにて視察研修会 <p>3) 新しく女性農業者が集まる居場所作り 4) 勉強会後も関係者が連携し活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男女 10 名(メンバー 6 名含) 5 回 ・男女 20 名(メンバー 6 名含) 1 回 <p>3)2022 年 12 月 (目標) 4)2023 年 3 月以降</p>	
--	---	--

(注) 農業委員等に出選された等、地域での活躍状況等を「内容」欄に具体的に、取組内容等を含め記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

4 女性の就農環境改善対策事業を活用した取組の計画内容

(1) 働きやすい環境整備への支援

【計画内容】

時期	内容 (対象者・方法等)	備考

(注) 「内容」欄には支援内容、対象者、実施方法等を具体的に記載し、第 4 の (1) の事業の応募者は、確保する施設等について 5 名以上の女性の利用者がいることがわかるよう記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

(2) 地域の女性グループの活動支援

【課題】 ※簡潔にご記入ください。※課題番号は必要に応じて追加・削除ください。

①	地域らしさが感じられる魅力的な道の駅直売所に！
②	女性農業者の情報交換の場が少ない 新規女性就農者が少ない

【課題解決のための補助事業 (概要)】 ※課題番号に対応するように記入ください。

①	専門家講師を招き勉強会、ワークショップを重ね、道の駅直売所の活性化の方法や事業を明確にし、将来への方向性を見出し、着手できる実行プラン作成。次年度以降も活動する。
②	勉強会を重ねる中で女性農業者たちの交流が深まり、この活動を発信することで新しい仲間を増やし、継続的な組織にする。

【事業成果と今後のプラン】

※課題番号に対応するように記入ください。

※どのようにグループ活動の活性化及び今後の活動に繋がるか分かりやすく記入ください。

※できる限り、数値目標を入れてください。

※商品計画については、翌年度以降の販売事業計画をご記入ください。

①	地域らしさが感じられる魅力ある道の駅直売所になるような実行プランを立てる (実施)
---	---

	するための体制検討まで) 目標は商品開発 (1品) イベント (1回)
②	勉強会を重ねていく中で、関係者同士が繋がりを深め、活動グループへの参加者が3名以上増えることを目指す。

【事業内容 (詳細)】

課題番号	時期	グループ活動内容 (対象者・方法等)	事業実施経費 (費目、金額)	備考
①	2022年7月	勉強会とワークショップ① 1. 勉強会「直売所の成功事例等を学ぶ」 2. ワーク「参加者の想いを語る」 対象者：グループメンバー全員 指定管理者 生産者会	謝金 45,000円 旅費 24,462円 旅費 7,727円 消耗品費 10,193円	謝金規定に基づき算出
①	2022年8月	ワークショップ② 「道の駅が活性化している姿を描く」 対象者：グループメンバー全員 指定管理者 生産者会	謝金 45,000円 旅費 25,073円 旅費 7,727円	謝金規定に基づき算出
①	2022年10月	ワークショップ③ 「皆で実現できそうなアイデアを出す」 対象者：グループメンバー全員 指定管理者 生産者会	謝金 45,000円 旅費 24,462円 旅費 7,727円	謝金規定に基づき算出
①	2022年11月	視察研修 地域に根差した成功例直売所を視察 一日バス研修 対象者：グループメンバー全員 指定管理者 生産者会	旅費 125,000円	
①	2022年11月	ワークショップ④ 「アイデアを実現可能なアクションプランに」 対象者：グループメンバー全員 指定管理者 生産者会	謝金 45,000円 旅費 24,462円 旅費 7,727円	謝金規定に基づき算出
①	2023年1月	勉強会⑤ 「発表会とミニイベント」 対象者：グループメンバー全員 指定管理者 生産者会	謝金 45,000円 旅費 24,462円 旅費 7,727円	謝金規定に基づき算出
②	2022年6月	勉強会に向け 生産者の会に女性参加の呼びかけ		
②	2023年1月	グループに新規メンバーまたは地域に女性就農者が増えることを目指す		

(注) 「内容」欄には支援内容、対象者、実施方法等を具体的に記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

5 女性農業者確保の目標

事業実施年度翌年度までの 女性農業者の新規確保人数	3 人
(新規確保女性農業者の内訳) 自営農業就業者 3 人、雇用就農者 人、アルバイト・ボランティア等 人	

(注) 必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

女性農業者は、新規参入者、自営農業就農者(結婚を機に就農された方含む)、雇用就農者、アルバイト、ボランティア等を含む農業関連事業従事年間 30 日以上の女性とします。

農業関連事業とは、農産物製造・加工、農畜産物の貯蔵、運搬、販売、農業生産資材の製造、農作業の受託、都市住民等の農作業体験施設の設置・運営や民宿業を含みます。